

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位 数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態
症候学	必修	1	4	1		日本語	英語	オムニバス

【担当教員】 医学教育センター：秋好・山本 各臨床講座 教員

【科目名の英文】 Symptomatology

【授業の概要・到達目標】

授業の概要：主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を各分野統合して学ぶことにより、医師として必須となる診療の基本を修得する。

到達目標：発熱、全身倦怠感、食思（欲）不振、体重減少・増加、ショック、意識障害・失神、けいれん、めまい、浮腫、皮疹・粘膜疹、咳・痰・血痰、呼吸困難、胸痛、動悸、胸水、嚥下困難・障害、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、出血傾向、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿・蛋白尿、月経異常、不安・抑うつ、頭痛、運動麻痺・筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹、聴力障害・難聴・耳鳴り、視力障害の33症候について以下の目標に到達する。

具 体 的 な 到 達 目 標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. その症候の原因と病態生理を説明できる。	○		○			○
2. その症候をきたす疾患(群)を列举し、診断の要点を説明できる。	○		○			○
3. その症候がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。	○		○	○		○
4.						
各DPへの関連度（計10）	3		3	1		3

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	症候学①	全身倦怠感	総合診療・山本	講義
2	症候学②	意識障害・失神	神経内科・増田	講義
3	症候学③	運動麻痺・筋力低下	神経内科・木村	講義
4	症候学④	吐血・下血	消化器内科・小坂	講義
5	症候学⑤	体重減少・体重増加	内分泌糖尿病内科・吉田	講義
6	症候学⑥	腰背部痛	整形外科・宮崎	講義
7	症候学⑦	頭痛	総合診療・塩田	講義
8	症候学⑧	高次機能・感覚	神経内科・藪内	講義
9	症候学⑨	関節痛・関節腫脹	整形外科・平川	講義
10	症候学⑩	咳・痰・血痰	呼吸器内科・大森	講義
11	症候学⑪	腹痛	消化器内科・遠藤	講義
12	症候学⑫	呼吸困難・喘鳴発熱	呼吸器内科・藤島	講義
13	症候学⑬	出血傾向	腫瘍・血液内科・河野	講義
14	症候学⑭	排尿障害	泌尿器科・澁谷	講義
15	症候学⑮	胸痛	循環器内科・篠原	講義
16	症候学⑯	聴力障害・難聴・耳鳴り	耳鼻咽喉科・門脇	講義
17	症候学⑰	月経異常	産婦人科・小林	講義
18	症候学⑱	リンパ節腫脹	腫瘍・血液内科・高野	講義
19	症候学⑲	蛋白尿・血尿	腎臓内科・工藤	講義
20	症候学⑳	黄疸	消化器外科・増田	講義
21	症候学㉑	嚥下困難・嚥下障害	耳鼻咽喉科・立山	講義
22	症候学㉒	視力障害	眼科・八塚	講義
23	症候学㉓	ショック	救急医学・安部	講義
24	症候学㉔	浮腫	腎臓内科・福田	講義
25	症候学㉕	食欲不振・悪心・嘔吐	消化器外科・平下	講義
26	症候学㉖	胸水	呼吸器内科・小宮	講義

27	症候学⑳	めまい	総合診療・吉村	講義
28	症候学㉑	便秘・下痢	消化器内科・福田	講義
29	症候学㉒	皮疹・粘膜疹	皮膚科・酒井	講義
30	症候学㉓	動悸・心悸亢進	循環器内科・高橋	講義
31	症候学㉔	けいれん	小児科・前田	講義
32	症候学㉕	発熱	総合診療・堀之内	講義
33	症候学㉖	睡眠障害・不安・抑鬱	精神科・平川	講義

【アクティブラーニングの内容】 症例ベースの臨床推論をグループで事前学習する。それをスライドで提出し、講義内で随時発表を行う。	【その他の工夫】
--	----------

【時間外学修の内容と時間の目安】	
準備学修	事例がある症候については Moodle 上に掲載された事例（医療面接）から事前に臨床推論を行い、事例がない症候についてもその症候についての事前学習を行っておくこと（33h）。
事後学修	各症候の原因と病態生理を理解し、診断や治療の要点について自身でまとめ、専門的な治療が必要な状態を述べることができるようになる（12h）。
想定時間合計	45h

【教科書】
教科書を指定しない。各講義担当講座の教員が作成した資料をもとに講義を行う。

【参考書】

【成績評価方法及び評価の割合】
出席（グループ学習含む）とレポート合わせて 40%、筆記試験 60%で最終的な成績評価をする。また、2/3 以上の出席が確認できない場合は、筆記試験の受験資格を認めず不合格となる。なお、筆記試験の合格（100 点満点中 60 点以上の点数を獲得すること）を単位修得の条件とする。加えてグループ学習ではピア評価を行うことがあり、そこでの評価が低い場合は個別に面談を行う。

【注意事項】
授業の方法及びレポートの提出期限等の詳細については初日のオリエンテーションで周知する。
学務課から Gmail で連絡があるので、必ず確認すること。
Moodle も日々更新されるので、毎日チェックすること。
オンライン講義になった場合には、Zoom のブレイクアウトセッションを用いたグループディスカッションを行うので、カメラ・マイク機能が必要となる。持っていない場合は学務課から貸し出すので事前に申し出ること。
講義内容に関する質問は担当教官へ直接メールして下さい。
症候学コース全般に関することや、試験に関することは医学教育センターまたは学務課へ問い合わせして下さい。

【備考】

リンク			
	URL		
教員の実務経験の有無	○		
教員の実務経験	医師		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×		
教員以外の指導に関わる実務経験者			
実務経験をいかした教育内容	33 症候について、それぞれの担当診療科の医師が、実務経験をもとに講義を行う。		
授業形態	対面（学内の状況によってオンライン講義となる可能性があります）		